

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970500623		
法人名	医療法人 芙蓉会		
事業所名	グループホーム芙蓉		
所在地	山梨県笛吹市一宮町竹原田1359-1		
自己評価作成日	平成29年 9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成29年10月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桃畑・県立森林公園に隣接して、春は桃と桜のコラボレーション、夏は新緑、秋には紅葉狩りが楽しめます。自然を満喫できるグループホームです。中庭からは、その景色を目の前に観ることができ、時には中庭で昼食をいただきます。一度に五感を刺激することができます。また、自然の中にありながら、徒歩圏内にショッピングセンターやホームセンターがあり、散歩の途中に買い物ができる環境にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は果樹園に囲まれ、近くには森林公園があり自然豊かな所にある。建物は平屋で事務所を挟んで東館、西館にそれぞれのユニットが配置されコの字型で中庭を広くとり両ユニットの広いフロアから見渡せるようになっていて。隣接している公園に、積極的に出かけて地域の人との交流の機会ともなっている。近くに同一法人の運営する介護老人保健施設もあり、法人全体で職員の研修の機会も多い。接遇研修などで利用者に対する言葉かけや人権を尊重する心などを学んでいる。利用者は家族とのつながりやこれまで培った人との関係の継続に努める職員と共に、環境の良い中ゆったりと日々を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての運営理念は、事務所に掲示し職員全員が共有している。グループホーム芙蓉としての理念を話し合っているところであり、のちにケアに反映できるようにしたい。	法人としての運営理念は、事務所に掲示し職員全員が共有している。グループホーム芙蓉としての理念を話し合っているところであり、のちにケアに反映できるようにしたい。	法人の理念は事務所の目に付きやすい所に掲示され職員の意思統一を図っている、グループホーム独自の理念は職員一人ひとりから意見を出してもらい現在作成中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	月に一度、歌の先生(ボランティア)による歌会を開催している。歌の先生は元入居者のお嫁さんで、退居後も継続して来てくださっている。市内の保育園児には、クリスマスなどの行事の際に協力していただいている。自治会内に職員が住んでいるので、地域の情報が得られている。	月に一度、歌の先生(ボランティア)による歌会を開催している。歌の先生は元入居者のお嫁さんで、退居後も継続して来てくださっている。市内の保育園児には、クリスマスなどの行事の際に協力していただいている。自治会内に職員が住んでいるので、地域の情報が得られている。	外部からのボランティア講師で月に1回合唱の会(童謡が中心)を実施している。その時々に合わせて季節の歌を唄い楽しい時間をすごしている。又、近くの保育園児との交流もあり、地域の公民館祭にも参加している。事業所に隣接した公園には散歩に出掛けそこに来ている地域の人と将棋の相手をしてもらうこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生・高校生の職場体験実習の依頼を受けている。認知症のお年寄りの接し方や病気に対する理解を深めていただけるように努めている。	中学生・高校生の職場体験実習の依頼を受けている。認知症のお年寄りの接し方や病気に対する理解を深めていただけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。市役所職員・民生委員・入居者家族・入居者代表が出席し、事業報告や行事の写真を観ていただき、意見や感想を今後のサービスに活かせるようにしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。市役所職員・民生委員・入居者家族・入居者代表が出席し、事業報告や行事の写真を観ていただき、意見や感想を今後のサービスに活かせるようにしている。	2か月に1度開催し入居者も参加して会議の進行の一部を担っている。地域の情報は民生委員から提供され、行政からも参加してもらい情報交換を行なっている。メンバーからは災害時の避難場所についてや事業所内にAED設置してあることを地域に情報提供して欲しいなどの意見が出され、意見を反映した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者より頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所代表の方には、2ヶ月に1回の運営推進会議に出席していただいている。市役所で開催している連絡協議会への参加に努めている。わからないことや困りごとは、直ぐに連絡をとり相談するようにしている。	市役所代表の方には、2ヶ月に1回の運営推進会議に出席していただいている。市役所で開催している連絡協議会への参加に努めている。わからないことや困りごとは、直ぐに連絡をとり相談するようにしている。	市役所で3か月に1度介護保険事業者連絡会が開催され市からの報告がありその後は同業者ごとに集まって情報交換を行なっている。市の介護保険担当者とは利用者の認定更新や介護度の変更などや、最近では市外からの入所希望があったことなどを相談した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを職員全員に配布している。玄関は自動施錠であり、自由に入出入りはできないが、一緒に出られるように対応している。中庭は自由解放している。	身体拘束マニュアルを職員全員に配布している。玄関は自動施錠であり、自由に入出入りはできないが、一緒に出られるように対応している。中庭は自由解放している。	法人が行う研修会に参加した職員は職員会議で研修内容を伝え全職員が意思統一を図っている。スピーチロックに関しては日常の中で不適切な言葉かけがあれば管理者やケアマネージャーが注意したり、職員同士で注意しあうこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルを職員全員に配布している。虐待となる行為や兆候を示すサインなどの把握に努めている。	高齢者虐待マニュアルを職員全員に配布している。虐待となる行為や兆候を示すサインなどの把握に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人の研修会・市の連絡協議会・その他外部の研修に参加し、理解を深めている。	同法人の研修会・市の連絡協議会・その他外部の研修に参加し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談・ホーム内見学の段階から、ホームの取り組みについて説明し、契約時は重要事項説明書を基にわかりやすく説明している。不明な点は随時話し合う機会を設けている。	入居前の面談・ホーム内見学の段階から、ホームの取り組みについて説明し、契約時は重要事項説明書を基にわかりやすく説明している。不明な点は随時話し合う機会を設けている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己		項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
部	外		ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者・家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口がある情報を伝えている。ホーム内にはご意見箱を設置している。ご家族の面会時にはお声をかけて、意見を伺うようにしている。	苦情窓口がある情報を伝えている。ホーム内にはご意見箱を設置している。ご家族の面会時にはお声をかけて、意見を伺うようにしている。	家族からの意見は大事に捉え面会の時や電話連絡の時など、意識的に意見を聞くようにしている。家族からは「いつも同じ服を着ている」など日頃の支援方法などの質問があったが、利用者本人の希望であること清潔維持には留意していることなど説明し、理解してもらった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議にて、職員の意見や要望をきく機会を設けている。	月に一度職員会議にて、職員の意見や要望をきく機会を設けている。	職員会議には事務長も参加し、職員からの要望は日常的に出している。ケアに関する意見や気づきは申し送りノートを活用して全員に回覧し、統一した支援に努めている。物品の購入に関してもすぐに対応している。職員からの意見はよく出されており、職員の交流を目的とした食事会の要望も実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が無理なく勤務できるように、極力勤務の希望を聞き入れ勤務できるように配慮している。	職員が無理なく勤務できるように、極力勤務の希望を聞き入れ勤務できるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人の研修会・市の連絡協議会・その他外部の研修に参加し、理解を深めている。	同法人の研修会・市の連絡協議会・その他外部の研修に参加し、理解を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会への参加を促している。参加した職員は、他施設の同業者や他職種の方と話すことで大変刺激になると感じており、今後のケアに活かしていきたい。	外部の研修会への参加を促している。参加した職員は、他施設の同業者や他職種の方と話すことで大変刺激になると感じており、今後のケアに活かしていきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に必ず入居者ご自身と面談する機会を設けている。その時入居者が暮らしている環境をみることで、お世話をされている方々からお話を伺うようにしている。	ご入居前に必ず入居者ご自身と面談する機会を設けている。その時入居者が暮らしている環境をみることで、お世話をされている方々からお話を伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前に入居者ご自身・ご家族と面談し、認知症発症の経過、不安に思っていること・困っていること等伺い、一緒に考えながら信頼関係を深めている。	ご入居前に入居者ご自身・ご家族と面談し、認知症発症の経過、不安に思っていること・困っていること等伺い、一緒に考えながら信頼関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談・ホーム内見学の段階から、ホームの取り組みについて説明し、契約時は重要事項説明書を基にわかりやすく説明している。不明な点は随時話し合う機会を設けている。	入居前の面談・ホーム内見学の段階から、ホームの取り組みについて説明し、契約時は重要事項説明書を基にわかりやすく説明している。不明な点は随時話し合う機会を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にとって職員は、きちんと職員と認識されている方もいれば、家族の誰か・会社の同僚など認識もまちまちなので、個々に寄り添い接している。	入居者にとって職員は、きちんと職員と認識されている方もいれば、家族の誰か・会社の同僚など認識もまちまちなので、個々に寄り添い接している。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者に安心して過ごしていただくために、ご家族と連絡を密にし、可能な限り協力を依頼している。	入居者に安心して過ごしていただくために、ご家族と連絡を密にし、可能な限り協力を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の協力で、お墓参りや行きつけだった美容院に出掛けている。時には息子さんと一緒にパチンコに行く方や、知人と温泉に行く方もおり、これまでの関係を継続している。	ご家族や知人の協力で、お墓参りや行きつけだった美容院に出掛けている。時には息子さんと一緒にパチンコに行く方や、知人と温泉に行く方もおり、これまでの関係を継続している。	利用者の入居前に生活歴など細かくアセスメントを行い、出来る限りこれまでの生活スタイルを継続した形での支援が行われるよう努めている。家族の協力で週2回パチンコに連れて行ってもらう利用者もいたり、馴染みの美容院に行くなど利用者や家族間をつなげるような支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、心配事があれば一緒に考えてくれる場面がある。食事の場面では、おかわりの促しや、口を拭いてあげる場面もあり、支え合い暮らしている。	入居者同士、心配事があれば一緒に考えてくれる場面がある。食事の場面では、おかわりの促しや、口を拭いてあげる場面もあり、支え合い暮らしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ転居された方は、その後面会して経過を見守っている。長期入院のため契約解除した方に関しては、病状が改善した際、優先的に受け入れをしている。受け入れ困難な場合でも、情報を提供して困ることのないように支援している。	入院や他施設へ転居された方は、その後面会して経過を見守っている。長期入院のため契約解除した方に関しては、病状が改善した際、優先的に受け入れをしている。受け入れ困難な場合でも、情報を提供して困ることのないように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に得た情報から、希望・意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な方に関しては、発した言葉や言動を見逃さないようにし、ケアのヒントにしている。	入居前に得た情報から、希望・意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な方に関しては、発した言葉や言動を見逃さないようにし、ケアのヒントにしている。	日頃の支援の中で散歩の時あるいは入浴中のリラックスしている時などに利用者と会話の中から出た言葉を大事に受け止めている。面会に来られた方からの情報や、利用者同士の会話などを見逃さないようにして個人ファイルに記録し、職員全体に周知を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、生活歴や生活習慣の聞き取りをし、認知症を患う少し前の暮らしに近づくことができるように努めている。	ご本人やご家族から、生活歴や生活習慣の聞き取りをし、認知症を患う少し前の暮らしに近づくことができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察記録を日内変動がわかるようにして、心身状態の把握に努めている。特に不安定な方・重要なことを伝える場合は、申し送りノートを活用している。	観察記録を日内変動がわかるようにして、心身状態の把握に努めている。特に不安定な方・重要なことを伝える場合は、申し送りノートを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成は、ご本人・ご家族から今後の意向を伺い、短期目標6ヶ月・長期目標は1年で見直し作成している。変化があったり、問題が発生した場合は、スタッフ間のカンファレンスにて、随時修正している。	計画作成は、ご本人・ご家族から今後の意向を伺い、短期目標6ヶ月・長期目標は1年で見直し作成している。変化があったり、問題が発生した場合は、スタッフ間のカンファレンスにて、随時修正している。	入居前の状況を家族や担当しているケアマネージャーからアセスメントを行ない、入居後は職員の観察ノートや申し送り記録等を参考にプランを作成する。大きな変化がなければ半年ごとの見直しが行われ、往診記録も参考にしケアプランに反映している。状況の変化があった時には柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察記録に日々の様子や気付いたことを記録している。直ちに共有しなければならないことは、申し送りノートを活用している。	観察記録に日々の様子や気付いたことを記録している。直ちに共有しなければならないことは、申し送りノートを活用している。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な事情により生じたニーズに対しても、できる限り臨機応変な対応を考慮している。	急な事情により生じたニーズに対しても、できる限り臨機応変な対応を考慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域民生委員の紹介でボランティアの方を行事の時に迎えたり、老人会の情報をいただいたりしている。	地域民生委員の紹介でボランティアの方を行事の時に迎えたり、老人会の情報をいただいたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの入居者は、月2回の訪問診療を受けている。入居前からのかかりつけがあり継続希望の場合は、優先している。歯科の来訪もある。必要に応じて専門医へ受診の援助もしている。	殆どの入居者は、月2回の訪問診療を受けている。入居前からのかかりつけがあり継続希望の場合は、優先している。歯科の来訪もある。必要に応じて専門医へ受診の援助もしている。	入居前はそれぞれにかかりつけ医があったが、家族・本人の希望で事業所の往診の体制に切り替えている。眼科、歯科、皮膚科受診などは家族が受診対応している。月に2回の往診とその間には訪問看護が入っている。往診ノート、申し送りノート、などを活用し職員間、家族は医療情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回、医師の診療とは別の週に訪問看護がある。アドバイスをいただいたり、緊急性のある場合は訪問看護師から医師に伝えてもらっている。	月2回、医師の診療とは別の週に訪問看護がある。アドバイスをいただいたり、緊急性のある場合は訪問看護師から医師に伝えてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーにて、身体状況や疾病の経過など、情報提供を行っている。入院中はお見舞いに伺い、ご本人の様子を確認している。治療の期間や退院の見通しなど、ご家族と共に相談員や担当看護師との話し合いに参加させていただいている。	入院時は介護サマリーにて、身体状況や疾病の経過など、情報提供を行っている。入院中はお見舞いに伺い、ご本人の様子を確認している。治療の期間や退院の見通しなど、ご家族と共に相談員や担当看護師との話し合いに参加させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化対応・終末期ケアに関わる指針」を説明し、同意していただいている。入居者の状態に変化があった場合は、主治医も交えて今後の方針について話し合う。延命を希望しないご家族もおり、お看取りをするケースもある。お看取りが想定されるケースの場合は早めに話し合っている。	入居時に「重度化対応・終末期ケアに関わる指針」を説明し、同意していただいている。入居者の状態に変化があった場合は、主治医も交えて今後の方針について話し合う。延命を希望しないご家族もおり、お看取りをするケースもある。お看取りが想定されるケースの場合は早めに話し合っている。	入居時、重度化した時や終末期に向けた支援の内容を家族に説明し、書面にて確認している。入居者の状態に変化が生じた時はその都度、主治医から家族に繰り返し説明を行ない、方針を確認し話し合っている。実際にこれまで何人かの利用者の看取り支援を行なった。事業所での看取りを希望していたが医療行為の必要が生じたため入院となった方もいた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、同法人内で行われる救急訓練に参加している。また、AEDを設置したので、職員全員講習を受けている。内部では、止血、意識レベルについての勉強会を行うなど、スキルアップにつとめている。	年に1回、同法人内で行われる救急訓練に参加している。また、AEDを設置したので、職員全員講習を受けている。内部では、止血、意識レベルについての勉強会を行うなど、スキルアップにつとめている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災訓練を行っている。出火場所や日勤想定・夜勤想定と場面を変えて行っている。地域の消防団には来訪してもらい、ホーム内の見学や、入居者の状況について理解してもらっている。区長とも相互協力できるよう、協定を結んでいる。	年に2回、防災訓練を行っている。出火場所や日勤想定・夜勤想定と場面を変えて行っている。地域の消防団には来訪してもらい、ホーム内の見学や、入居者の状況について理解してもらっている。区長とも相互協力できるよう、協定を結んでいる。	年2回、夜間(1回)昼(1回)を想定し火災避難訓練を実施している。出火場所を変え誘導方法や避難経路を検討している。2回の訓練の内、1回は地元消防団が来所し事業所の状況を知ってもらい利用者の様子も理解してもらっている。地域区長を通じて地域、事業所間の相互協力関係を築いている。火災、地震災害に加え水害対策、土砂災害などのマニュアルも整備している。	火災、地震、水害など災害が起こった時に職員が冷静に判断し、利用者、職員がいっしょになって速やかに避難できるよう、その方法を身に付けることを期待したい。また、職員一人ひとりがさまざまな災害にしっかりと意識を持ち、マニュアルだけでなく、実際にシミュレーションした訓練を繰り返すことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者に合った、馴染みやすい言葉かけで対応している。長期関係での馴れ合い過ぎには、注意を促している。	個々の利用者に合った、馴染みやすい言葉かけで対応している。長期関係での馴れ合い過ぎには、注意を促している。	フロアでのスタッフ会議、引継ぎなどの際は周囲に聞こえないよう配慮をしている。法人が行う接遇研修には交代で参加し利用者の人格を尊重した言葉かけに努めている。排泄の支援、トイレ誘導など丁寧な言葉かけを心掛けている。個人情報にかかわる書類は事務室にて管理している。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができる入居者に関しては、決める機会を作っている。意思表示が難しい入居者に対しては、好む好まないことの把握に努めている。	意思表示ができる入居者に関しては、決める機会を作っている。意思表示が難しい入居者に対しては、好む好まないことの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心身の変化で起床・食事・入浴時間など、決まった時間での行動が不可能な場合は時間を変更し、無理強いはいないように配慮している。	心身の変化で起床・食事・入浴時間など、決まった時間での行動が不可能な場合は時間を変更し、無理強いはいないように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護しやすいジャージやスウェットには極力せず、今まで着ていた好みの洋服を着ている入居者が多い。	介護しやすいジャージやスウェットには極力せず、今まで着ていた好みの洋服を着ている入居者が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前に嗜好を伺い、アレルギーや苦手なものへの配慮をしている。入居者はテーブル拭き・配下膳・野菜切りや皮むき・洗い物を職員と一緒にしている。手伝いが出来ない入居者も、料理は一から手作りなので、音や匂いを感じることができる。	入居前に嗜好を伺い、アレルギーや苦手なものへの配慮をしている。入居者はテーブル拭き・配下膳・野菜切りや皮むき・洗い物を職員と一緒にしている。手伝いが出来ない入居者も、料理は一から手作りなので、音や匂いを感じることができる。	年に2~3回、外食の機会を作っている。法人の栄養師が作ったメニューを基本に利用者の好みや希望を入れアレンジしている。食材の8割は届けられ、その他を管理者が買いに行っている。食材の下ごしらえ、炒め物など利用者も出来る範囲で職員としっかりと調理している。月1度の手作りおやつは男性の利用者も張り切って参加しており、それぞれの利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士が作成した献立を基に、メニューを決めている。入居者の嗜好・障害に合わせた形態で食事を提供している。	同法人の管理栄養士が作成した献立を基に、メニューを決めている。入居者の嗜好・障害に合わせた形態で食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者それぞれの口腔内の状況を把握し、毎食後にケアができるように支援している。口腔内トラブルがあれば、直ぐに訪問歯科に依頼し対応している。	入居者それぞれの口腔内の状況を把握し、毎食後にケアができるように支援している。口腔内トラブルがあれば、直ぐに訪問歯科に依頼し対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンは観察記録に記入し、把握に努め、誘導等個別支援をしている。入院をきっかけにオムツ着用になってしまった方に対しても、排尿誘導にてオムツを外せるよう支援している。	排泄パターンは観察記録に記入し、把握に努め、誘導等個別支援をしている。入院をきっかけにオムツ着用になってしまった方に対しても、排尿誘導にてオムツを外せるよう支援している。	排泄チェック表を記入し、一人ひとりのパターンに合わせた支援が行われている。トイレ誘導も根気よく実施することで、トイレでの排泄がほぼ全員可能になっている。失禁した場合でも、個人の誇りを傷つけないようさりげなくトイレの中で更衣を行なうなどの配慮が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症で管理が必要な方に対しては、個々に応じた対応(内服の調整や敵便)をしている。	便秘症で管理が必要な方に対しては、個々に応じた対応(内服の調整や敵便)をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	通常週3回の入浴援助を行っている。午後の時間帯だが、体調や都合にも柔軟に変更できるように対応している。入浴嫌いで、決まった時間に入浴することが難しい方は、入りたいと言ったタイミングを逃さないように、柔軟に対応している。	通常週3回の入浴援助を行っている。午後の時間帯だが、体調や都合にも柔軟に変更できるように対応している。入浴嫌いで、決まった時間に入浴することが難しい方は、入りたいと言ったタイミングを逃さないように、柔軟に対応している。	土、日曜日以外は毎日の入浴が可能であるが、利用者の希望に沿い一日おきの入浴となっている。時間帯は本人の習慣や希望を大切に支援している。入浴順は不公平感がないよう利用者の様子を見ながら決めている。入浴を拒否される利用者には、職員を変えたり時間を変え誘うなど対応を工夫している。シャンプー類も、事業所で用意したもの、個人用のものと本人の好みを優先している。ゆず湯なども季節行事に合わせ楽しんでいる。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドや寝具は、基本レンタルだが、入居時に希望を伺い、馴染みのベッドや寝具を持ってきていただくこともある。	ベッドや寝具は、基本レンタルだが、入居時に希望を伺い、馴染みのベッドや寝具を持ってきていただくこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服情報は、すぐ見ることができるように、ファイルしてある。処方が変わった時は、申し送りノートに記載し、副作用等注意が必要な事柄は付けくわえている。	内服情報は、すぐ見ることができるように、ファイルしてある。処方が変わった時は、申し送りノートに記載し、副作用等注意が必要な事柄は付けくわえている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの制作や、行事への参加を促している。喫煙・飲酒など、嗜好品もできる考慮している。	季節ごとの制作や、行事への参加を促している。喫煙・飲酒など、嗜好品もできる考慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に2回、職員と入居者2:2での外出食援助を行っている。入居者の身体機能や希望を考慮して行き先を決定している。近所の公園へは随時出掛けている。	年に2回、職員と入居者2:2での外出食援助を行っている。入居者の身体機能や希望を考慮して行き先を決定している。近所の公園へは随時出掛けている。	気候が良く、天気の良い日には、隣接する公園へ日常的に散歩をしている。利用者は真夏の暑い時でも出かけたがるほど楽しみにしている。又、事業所の中庭は芝生が広がり外気浴や、お茶を楽しむ場になっている。外食、ドライブ、自宅の様子を見に行く、リンゴ狩りなど個別外出もその時々、柔軟に支援している。家族の協力で墓参りをしたり、パチンコを楽しむ方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを管理している方は数人いる。能力に応じて支払いもしていただくが、殆どの方は、ご家族が管理している。	小遣いを管理している方は数人いる。能力に応じて支払いもしていただくが、殆どの方は、ご家族が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望される方には支援している。手紙についても、届いたものへの返事を出す支援をしている。	電話をかけたいと希望される方には支援している。手紙についても、届いたものへの返事を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはテレビを囲んで大きなソファが置いてあり、入居者と職員が一緒にくつろいで過ごしている。食堂にも行き来しやすく、廊下には行事の写真や季節の制作物を飾り、四季を感じる工夫をしている。大きなサッシの向こう側は中庭で、明るく開放的である。	居間にはテレビを囲んで大きなソファが置いてあり、入居者と職員が一緒にくつろいで過ごしている。食堂にも行き来しやすく、廊下には行事の写真や季節の制作物を飾り、四季を感じる工夫をしている。大きなサッシの向こう側は中庭で、明るく開放的である。	フロアには大きなソファがあり利用者はゆったりと足を延ばしてくつろいでいる。壁には季節感のある掲示物が貼ってあり、人形を好む利用者のため人形やぬいぐるみが置かれている。廊下には所どころに長椅子が置かれ利用者の休憩スペースとなっており、会話を楽にする空間になっている。大きな窓から見渡せる中庭にはガーデンベンチが置かれ、両ユニットの利用者同志が交流でき、行事の会場にもなっている。	
53		○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同志は居間や食堂で過ごしている。一人になりたい方は、居室や廊下、中庭の居心地のいい場所を確保して定位置にしている方もいる。	気の合う同志は居間や食堂で過ごしている。一人になりたい方は、居室や廊下、中庭の居心地のいい場所を確保して定位置にしている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでいる。こたつを立てて、自宅にいた時のように過ごせるよう工夫したり、お仏壇やお位牌を持ち込み、毎日水を換えている。	家で使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでいる。こたつを立てて、自宅にいた時のように過ごせるよう工夫したり、お仏壇やお位牌を持ち込み、毎日水を換えている。	居室はエアコン、カーテンが備え付けてある。自宅で使われていた家具やテレビ仏壇などを持ち込み、家族の写真や手芸作品などが飾られている。その人らしく安心できる空間であるよう整え、仏壇に水を備えるなどの習慣も大切に支援している。居室の押し入れは収納力があり室内が整理しやすく広く感じる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりがついている。長い廊下を自由に行き来できるように、所々に腰かけを置き、ひとやすみできるように配慮している。	バリアフリーで手すりがついている。長い廊下を自由に行き来できるように、所々に腰かけを置き、ひとやすみできるように配慮している。		